

事務事業名	学校図書館充実化研究事業			担当	教育委員会 学校教育課 学校教育係		
政策名	B	学びと歴史・文化が豊かな心を育むまちづくり			電話番号	0285-81-8181	
施策名	2	小・中学校の教育の充実			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業		
基本事業名				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ		
法令根拠					<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 25 年度～）		
予算科目					<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）		
事業概要	学校図書館に専任司書を配置することで、児童生徒に対応し、読書の楽しみを知ってもらい読書活動をはじめ授業と連携した調べ学習の機会を拡充し、学校図書館の充実化を図る。 平成25年度小学校モデル校（真岡小、大内中央小、長田小、西田井小、久下田小）						

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 25年度実績 平成25年度から開始（平成26年1月～3月末）小学校モデル校5校（真岡小、大内中央小、長田小、西田井小、久下田小）に、巡回方式で3人の専任司書を配置した。図書館のレイアウト改善、調べ学習など実施。モデル校の図書担当教諭との連携、低い書架にして、低学年の児童も直接本が手に取れるようにした。 26年度計画 前年度に同じ	⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移							
	名称		単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(見込)
	ア	専任学校図書館司書	人				3	3
	イ	モデル配置校					5	5
	ウ							
エ								
オ								
②対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 児童・教職員	⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移							
	名称		単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(見込)
	ア	貸出数（モデル校5校）	冊			5117	5395	
	イ							
	ウ							
エ								
オ								
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 本に親しみ、読書の楽しみを知ってもらい、さらに、授業と関連づけて「物事を調べる」方法を学び、児童に「分かる」ことの喜びを身につけさせる。	⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移							
	名称		単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(見込)
	ア	学校図書館利用児童（モデル校5校）	人			4416	4866	
	イ							
	ウ							
エ								
オ								
④結果（どんな結果（上位施策）に結びつけるのか） 本を身近なものとして、本に接することで、本を通じて自分で調べる方法、多くの感情を体感し豊かな人間性を豊かにする基礎をつくることのできる。	⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移							
	名称		単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(見込)
	ア							
	イ							
	ウ							
エ								
オ								

(2) 総事業費の推移		単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(見込)
投入量	事業費	財源内訳	千円	0	0	0	0
		国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0
	一般財源	千円	0	0	0	3,773	
	事業費計(A)	千円	0	0	0	3,773	
	人件費	正規職員従事人数	人	0	0	0	1
		延べ業務時間	時間	0	0	0	20
		人件費計(B)	千円	0	0	0	81
トータルコスト(A)+(B)		千円	0	0	0	3,854	

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等	
①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	社会的には、学生が本を読まなくなっていることなどが課題とされ、インターネットの普及に伴い、ますますそれらが進む傾向にあった。情報面と学習面から小中学生の頃の読書が必要とされ、本の楽しみ、物事を調べる学習効果も期待されることから。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	社会全体としてインターネットの普及により、本に接する時間が減少している。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	議会一般質問があり、学校も学校図書館の専任司書の配置を望んでいる。

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 小学校教育の充実につながっている。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 学校は学びの場であり、本に接することで本から自分で「調べる」「感じ取る」は児童の今後の学習への動機づけにつながるため。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 現在は、モデル校として5校で実施しているが拡充していく。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずにより正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある モデル校の検証を経て小学校全校を対象とする。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し(<input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							